

A. 主な動き

1. 内政

▼野党・共産党の動き

・28日、ボドナレンコ及びフィリポフ共産党議員は、それぞれソロカ市長及びタラクリン市長当選に伴い、議員辞職。空席は共産党比例代表リストに従ってモカン候補及びチェバン候補が繰り上げ当選。

▼議会の動き

・28日、議会法務・任命・職権委員会は、国会審議を欠席する議員への議員報酬を支払わない決議を賛成(AE) 7票、反対(共産党) 5票で可決。シルブ共産党法務担当議員は、議員の職務は国会審議出席以外にもあり、共産党による議会審議ボイコットはモルドバ国民の40%から支持されている旨指摘。

・29日をもって議会の春・夏会期閉会。9月に再開予定。

▼その他

・8月27日、モルドバ独立20周年記念行事は9時半、シュエファン・チェル・マレ記念碑への献花に始まり、10時から軍事パレード開催の予定。

・29日、ボディウ国務大臣は、2012年から2020年の国家戦略の概念を定めたMoldova2020を閣議に提出。2011年11月に議会に提出される予定。

2. 経済

▼マクロ経済・経済政策

・27日、中央銀行は、6月のモルドバの銀行における融資滞納額割合は前年同月比8.2%減の9.2%と発表。

▼農業

・25日、農業食品産業省は、2011年の1-6月期において、モルドバは5,370万リットルのワインを輸出と発表。同値は2010年同期比280万リットルの減少。

・25日、ブマコフ農業食品産業相は、キシニョフの中央市場は独占状態にあり、農家が直接のアクセスを有しておらず、また、農業食品産業省の権限も及んでいない旨発言。

▼対モルドバ支援

・25日、ライザー世銀モルドバ・ベラルーシ・ウクライナ常駐代表は、3,000万ドル相当の教育部門構造改革支援を継続する旨発表。

・25日、欧州投資銀行は、ワイン製造業者及びブドウ生産者向け支援の第2トランシェ(7,500万ユーロ)を実施。

▼その他

・27日、露メディアによると、モルドバの市民向け天然ガス価格は欧州の32カ国中26位の高さ。最安はカザフスタンで、ウクライナ、ベラルーシと続く。

・28日、ラザル副首相兼経済相は、モルドバ産業部門の総資産における政府のシェアは23-24%であり、市場経済への移行を過去20年間実施してきた国家としては高すぎる旨発言。

3. 外政

▼25日、スヘティナ・ポーランド下院議長への来訪

・25日、ルプ大統領代行(国会議長)は、スヘティナ・ポーランド下院議長と会談。二国間関係、モルドバの欧州統合、沿ドニエストル問題等につき協議。双方は、モルドバ・ポーランド議会議員会議創設に関する合意に署名。

・25日、フィラト首相は、スヘティナ・ポーランド下院議長と会談。二国間関係、ポーランドのEU議長国就任に関連した国際情勢等につき協議。スヘティナ・ポーランド下院議長は、モルドバの欧州統合に対するポーランドの支援を改めて約束。

▼その他

・25日、シューベル駐モルドバEU大使は、2014-2020年の欧州近隣政策予算が40パーセント増加する見込みであり、本年のEUによる対モルドバ支援額は最低でも総額7,860万ユーロに上る旨発表。

・26日、モルドバ外務・欧州統合省は、本年6月末までの在外公館における査証発給件数を6,716件と発表。

4. 沿ドニエストル

・27日、キプロスを訪問したブラホトニク議会第一副議長は、オミール・キプロス議会議長との会談において、分断国家であってもEU加盟国となったキプロスの経験はモルドバにとって興味深い旨発言。

5. 防衛

・26日、国防省は、ウクライナで開催されている国際軍事演習「ラピッド・トライデント2011」に約100人が参加している旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)